

[[原文](#) (“The Global Campaign for the Health Millennium Development Goals 2010—Putting the Global Strategy for Women’s and Children’s Health into action” p.22)]

「保健 MDGs に関するグローバル・キャンペーン」年次報告書への総理寄稿文 —新しい国際保健政策を通じ、女性と子供の福祉を確保する—

平成 22 年 11 月 19 日

ミレニアム開発目標（MDGs）の中で、母子保健は最も進捗が遅れています。5 歳未満児の死亡削減率は目覚ましく進展しているにも拘わらず、その進展は、国ごとに、あるいは途上国内で不均衡です。依然として多くの妊産婦が、施設での適切な予防や治療にたどり着けないまま命を落とし、多くの子供が生後 1 か月以内に命を失っているのです。

女性と子供が脆弱な存在であるが故に、予防や治療を公平に受けられず、進展の恩恵から排除されることは許されてはなりません。母親と子供の健康は、貧困削減や経済的成長の基盤でもあります。世界の母親と子供に健康な未来を確保することは、重要な外交課題であり、価値ある投資です。

したがって、私は MDGs 国連首脳会合における「菅コミットメント」の一つとして、母子保健を政策の大きな柱とした、日本の新たな国際保健政策を発表しました。新政策の下、日本は保健分野で 2011 年から 5 年間で 50 億ドルの支援を実施し、他のパートナーと共に、1130 万人の子供と 68 万人の母親の命を救うことを目指します。

新政策の中で、日本は、産前から産後までの切れ目のない手当を確保する EMBRACE（エンブレイス）モデルを提案しています。母子の命を守るためには、産前健診や、機材と人材の整った施設での新生児の手当て、ワクチン供与などを一つながりに行うことが肝心です。これは、日本自身の教訓に基づくと共に、国際的な専門的議論も経たモデルであり、そして「ムスコカ・イニシアティブ」

や「女性と子供の健康のための世界戦略」にも貢献するものであります。

途上国政府の皆様には、母子の死亡削減の目標達成のために、このモデルを導入してほしい。それを世界のドナー国、国際機関は、力を合わせて支援してほしい。日本も、G8ムスコカ・サミットの際に表明した2011年からの5年間で最大500億円規模の追加的支援などを通じ、国際社会と協力して、EMRACE（エンブレイス）に沿って行動していきます。

私たち国際社会は、命を救うための知恵や技術を既に備えています。目標達成には、これらの資源を結集し支援の効果を最大化することが重要なのです。よって、本年、多くの国が意味のある行動への政治的意志とコミットメントを新たにしたことは大変有意義であります。

忘れてならないのは、女性と子供の健康の問題は、感染症の原因となる水と衛生など他の課題とも密接に関連しており、保健の目標は、保健施策だけでは達成できないということです。人間一人ひとりに生きる力を発揮させる人間の安全保障の立場に立って、諸分野のMDGsを包括的に進めることが一層重要です。